

# 千葉市感染症発生動向調査情報

2015年 第24週 (6/8-6/14) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		24週	23週	22週	21週
小児科		16	18	17	18
眼科		5	5	5	5
インフルエンザ*		26	28	26	27
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数  
下段:定点当たりの患者数  
「定点当たりの患者数」とは  
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	6/8-6/14	6/1-6/7	5/25-5/31	5/18-5/24	6/1-6/7
			24週	23週	22週	21週	23週
小児科	RSウイルス感染症		0	0	1	1	1
	咽頭結膜熱	○	10	25	3	7	117
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		64	52	60	45	478
	感染性胃腸炎		121	111	102	113	738
	水痘		5	6	12	13	66
	手足口病		29	23	23	10	69
	伝染性紅斑		25	20	16	28	114
	突発性発しん		15	22	25	26	84
	百日咳		1	1	0	0	2
	ヘルパンギーナ		2	0	3	0	18
	流行性耳下腺炎		5	10	3	13	70
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0	1	1	0	29
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	1
	流行性角結膜炎		5	2	4	4	38
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	1
	マイコプラズマ肺炎		1	0	0	0	0
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	1	0	0	1
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	1	0	0	2

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(6件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	病原体等の検出等	デング熱	男性	20歳代	病原体遺伝子の検出等
腸管出血性大腸菌感染症	男性	20歳代	病原体の検出及び β毒素の確認	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	70歳代	病原体の検出
A型肝炎	女性	40歳代	血清IgM抗体の検出等	風しん	男性	30歳代	血清IgM抗体の検出

・結核1件(94)、腸管出血性大腸菌感染症1件(3)、A型肝炎1件(4)、デング熱1件(2)、  
侵襲性肺炎球菌感染症1件(18)、風しん1件(1)の報告があった。

※ ()内は2015年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

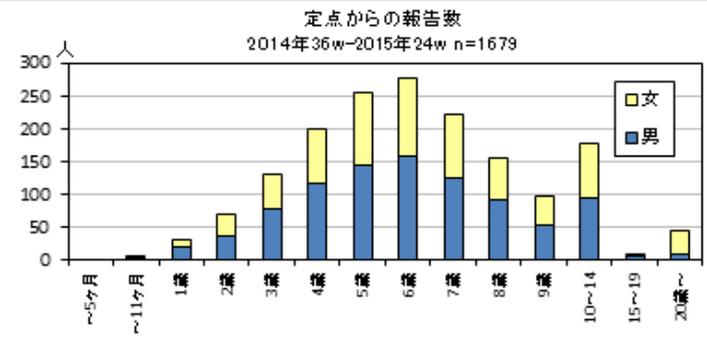
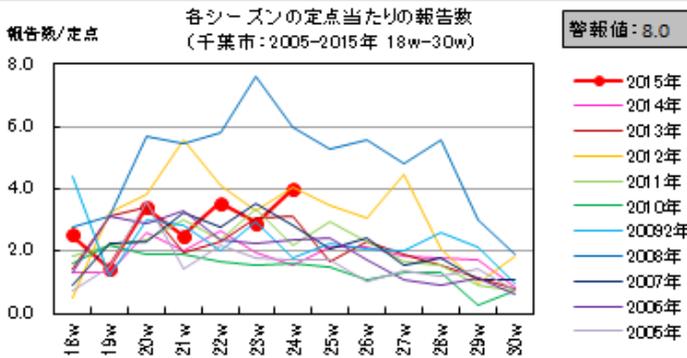
## 定点当たり報告数 第24週のコメント

- <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し4.00となった。過去10年の同時期と比べると多い。
- <手足口病> 前週より増加し1.81となった。過去10年の同時期と比べると多い。
- <伝染性紅斑> 前週より増加し1.56となった。過去10年の同時期と比べると最多。
- <流行性角結膜炎> 前週より増加し1.00となった。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

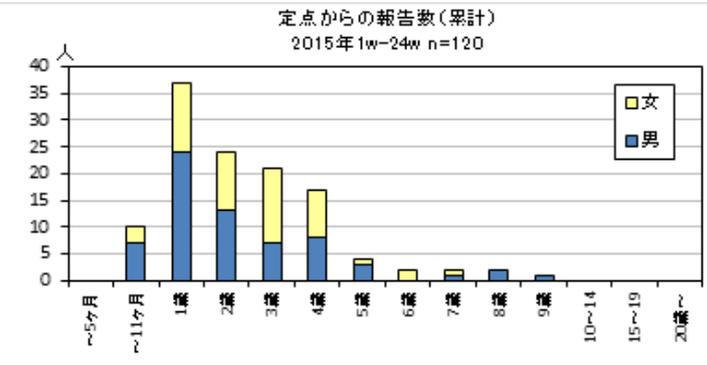
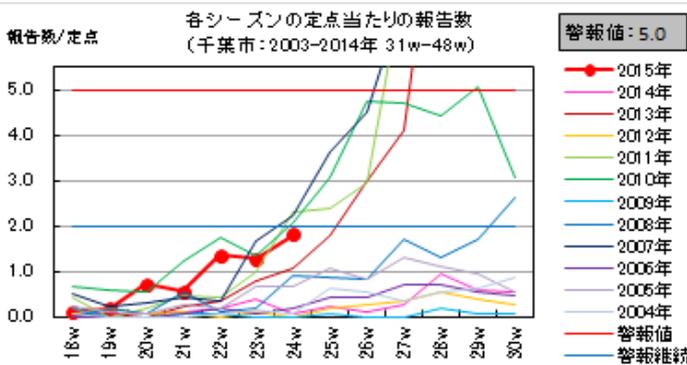
<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの2015年は、過去8年間の同時期と比べ最多の状態が第7週から続いており、第23週も同様に最多となっています。都道府県別では、鳥取県、鹿児島県、山口県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルとほぼ同レベルとなっています。千葉市の2015年第24週は、前週より増加し4.00となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況では、若葉区(7.5/定点)で最多で同区の3歳及び6歳で最も多く発生が報告されました。今シーズンである2014年第36週から2015年第24週現在の累積報告数(n=1679)によると、性別では男性が55.6%(934名)、女性が44.4%(745名)で、年齢階級別では6歳(16.5%:277名)、5歳(15.3%:257名)、7歳(13.2%:222名)の順に多くなっています。



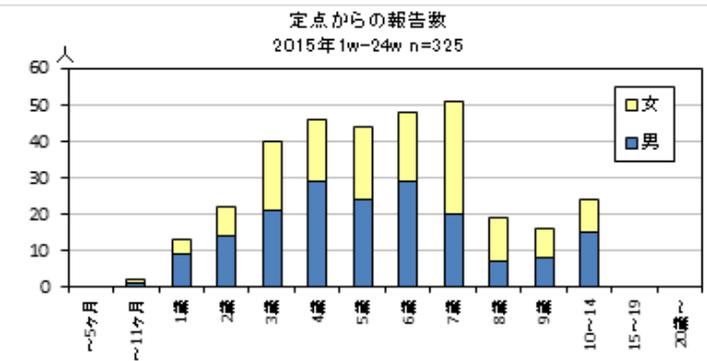
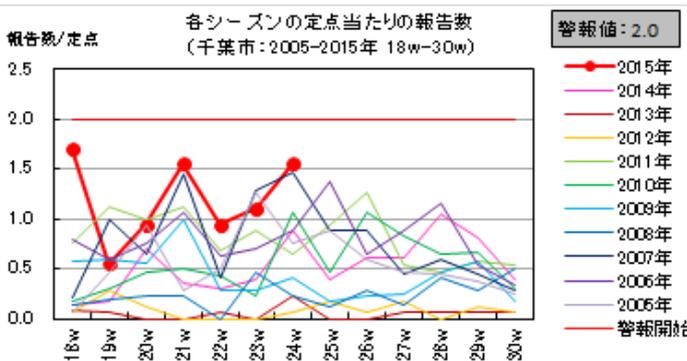
<手足口病>

全国レベルの2015年第23週は、過去8年間の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、徳島県、香川県、熊本県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なくなっています。千葉市では2015年第20週から上下を繰り返しながら増加傾向にあり、第24週は前週より増加し1.81となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況では、中央区(3.33/定点)で最多で同区の1歳で最も多く発生が報告されました。今シーズンである2015年第1週から第24週現在の累積報告数(n=120)によると、性別では男性が55.0%(66名)、女性が45.0%(54名)で、年齢階級別では1歳(30.8%:37名)、2歳(20.0%:24名)、3歳(17.5%:21名)の順に多くなっています。



<伝染性紅斑>

全国レベルの2015年第23週は、過去8年間の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では、山梨県、滋賀県、埼玉県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルよりやや多くなっています。千葉市の2015年第24週は前週より増加し1.56となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況では、稲毛区及び緑区(共に3.0/定点)で最多で、稲毛区では3歳、緑区では5歳及び10歳代前半で最も多く発生が報告されました。今シーズンである2015年第1週から第24週現在の累積報告数(n=325)によると、性別では男性が54.5%(177名)、女性が45.5%(148名)で、年齢階級別では7歳(15.7%:51名)、6歳(14.8%:48名)、4歳(14.2%:46名)の順に多くなっています。



## <流行性角結膜炎>

全国レベルの2015年第23週は、過去8年間の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。都道府県別では、熊本県、宮崎県、群馬県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多くなっています。千葉市では2015年第15週から上下を繰り返しながら増加傾向にあり、第24週は前週より増加し1.00となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況では、美浜区(4.00/定点)で最多で同区の30歳代で最も多く発生が報告されました。今シーズンである2015年第1週から第24週現在の累積報告数(n=64)によると、性別では男性が46.2%(30名)、女性が53.8%(35名)で、年齢階級別では30歳代(26.2%:17名)、40歳代(20.0%:13名)、20歳代(13.8%:9名)の順に多くなっています。

